

啄木ゆかりのカルタ寺

本行寺の門信徒会報

— 来た道・ゆく道 —

第81号

2023年8月1日

本行寺門信徒会 釧路市弥生2丁目 TEL 41-5329

<http://www5.ocn.ne.jp/~hongyou/>

E-mail hongyouji@poppy.ocn.ne.jp



西本願寺慶讃法要のようす



ぜんぢしき
善知識

本行寺 住職

菅原 顯史

「善知識」という言葉をご存知でしょうか？仏教では「正しい道理を教えて導いてくれる人」という意味があります。また、特に私たち浄土真宗では歴代のご門主様のことを「教え導く人」とあるという尊崇の念を込めて「善知識」とお呼びさせていただいております。

現在の浄土真宗本願寺派大谷光淳（専如）ご門主様は親鸞聖人から数えて二十五代目にあたります。それは親鸞聖人の血統^{けつとう}が受け継がれていることを表わしておりますが、それよりも肝心なことは、阿弥陀如来様のみ教えが八百年以上もの間、連綿と受け継がれてきたことにあります。そのことを「法統^{ほうとう}」と言います。その「法統」が現在へと受け継がれていることを再確認させていただいた「親鸞聖人ご誕生八百五十年立教開宗八百年記念法要」が全国各地から約十万人の門信徒のご参詣をいただき無事に円成（終了）いたしました。

本行寺門信徒会からも相川副会長をはじめ十数名の方が釧路組各ご寺院の門信徒の皆様とご一緒に参拝をさせていただきました。参拝された皆様は口々に有難

い尊いご縁であつたと喜んでおられました。

さて、この「善知識」という言葉。他にも意味があります。それは「善き友」「真の友人」という意味があるそうです。これは何を意味しているのかと、私なりの解釈をさせていただきますと、教えというものは、「上から下」へと伝わっていくだけではなく、「横から横」の繋がりからも伝わっていくということではないでしょうか。「門徒から門徒」、「友人から友人」、「横から横」へと、み教えが伝わってきたことも八百年を超える歴史の中で欠かせないものであったと思います。つまり、「善知識」は歴代のご門主様ばかりではなく、み教えをお互いに「善き友」「真の友人」として共有し合い、伝えあい、それを子や孫に伝えてこられた私たちの先祖の皆様のことでもあります。その先祖である「善知識」の皆様感謝し、今を生きている私たちも先祖の皆様にお互いに阿弥陀如来様のみ教えを伝えあい、そして、お互いにお念仏を申していく人生を送って参りましょう。

合掌



元旦礼拝



特別講演会

❖ 降誕会法要 ❖



去る五月十六日に名古屋より本願寺布教使藤野和成先生をお招きし、親鸞聖人のご誕生をお祝いする「降誕会法要」を執り行いました。

参詣者一同、親鸞聖人のご恩徳に感謝申し上げお念仏を申させていただきました。

コロナウィルス感染症が5類となり予防対策も緩和されましたが、マスクの着用は減る様子はみられません。ご門徒の皆様にはかがお過しですか。

五月十六日 本年度の定期総会において 会長に再任されました。二年間努めることになりました。微力ではありますがが宜敷お願いいたします。



会長 治 顯
寺信徒会 本行寺門
種市

ご挨拶
充実した寺をめざして

本年度の事業計画で、『結ぶ絆から、広がるご縁へ』『み仏の「教え」を聴いて、今を大切に生きよう。』を活動のスローガンに掲げ、実践課題として、寺院職員 門信徒が一体となって充実した寺院づくりに努める。門信徒は自ら「み教え」を聴きに 寺院に足を運ぶよう努める。ことを確認しました。

「盂蘭盆会」「秋彼岸」「報恩講」等の参詣もありますが、「日曜礼拝」(第三日曜九時)「常例法座」(毎月十五十六日)に参加して「み教え」を聴聞し、お念仏の友の輪を広げましょう!

『御同朋の社会をめざす運動』の輪を広げる運動の推進に努めることを願っています。まずは お寺へ 足を運びましょう!

合掌

会副 法	会要 部副	長部 部長	種市 草島 相川	顯治 守之 一義		
			板宗 高野 布村 大野 阿部 各教 (光寿 化団 會・世	利次 厚一 良由 孝昌 久《 新任	高杉 今村	耕三 勲
財	務部 部副	部長 部長	多賀 中川 末永 濱	信雄 清広 勝美 容子		
			大森 本間 野田	一道 弘人 光博	高橋 森谷	秀子 淳平
企	画部 部副	部長 部長	水口 山本 兩角 千島	吉朗 悦也 幹彦 保利		
			立浪 博勝	宮部 一彦	一彦	
監	査	立浪 博勝	宮部 一彦	一彦		
			立浪 博勝	宮部 一彦	一彦	

4月12日	会計監査
4月16日	役員会
5月16日	宗祖降誕会法要
6月16日	定期総会（降誕会法要終了後実施予定）
7月5日	会報部会（会報の件） 特別講演会
8月15・16日	孟蘭盆会法要
9月未定	門信徒会秋の遠足
9月23日	秋の彼岸法要
10月15日	報恩講準備（莊嚴・お磨き・清掃等）午前中 初参式（予定）午後から
10月16日	報恩講特別コンサート（予定）
11月16日	宗祖報恩講法要・永代経法要（16日のみ修行予定） 会報部会（会報の件）
1月1日	門信徒元旦礼拝
2月4日	第5回門信徒侶研修会（釧路組研修部・仏壮部合同）
3月20日	春の彼岸法要

行事・事業計画案

☆仏教婦人会
毎月16日 10:30～12:00

☆仏教青年会
毎月1回

☆仏教壮年会
毎月1回

☆藤花会
毎月1回

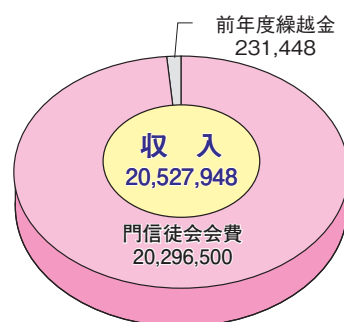
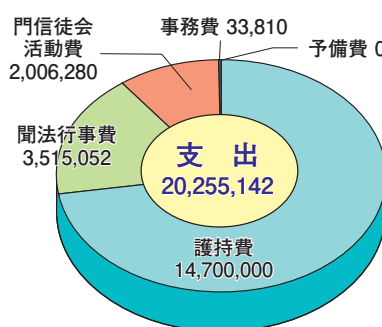
☆光寿会
毎月15日 12:00～13:00

☆常例法座
毎月15日 12:50～14:30
毎月16日 12:50～14:30

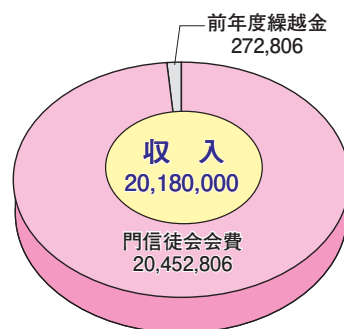
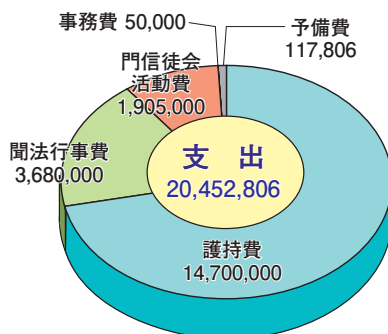
☆おあさじまいり
毎月16日 7:00～

☆日曜礼拝
毎月第3日曜日 9:00～10:00

【令和4年度決算】総額 20,527,948円



【令和5年度予算】総額 20,452,806円



親鸞聖人誕生八五〇年 立教開宗八〇〇年慶讃法要

ご門徒の皆様と本山におつとめしました

本行寺 坊守 菅原 麻子

去る三月三十一日～四月三日の三泊四日で、京都に行つてまいりました。

目的は西本願寺（ご本山）でつとまる親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年慶讃法要に出席するためです。この時期の京都は春らしい陽気が多いのですが、私達の行った数日はまるで夏のような日差し。一足早い暑さに、一緒に行った子ども達は大はしゃぎでした。

到着二日目の午前中がご参りの日でした。ホテルから出た街は夏だったのに、ご本山の御影堂（本堂）の中に入るとひんやりとしていました。「本行寺と同じだなあ、お寺ってこうだなあ。」と感じました。

お陰様で北海道から来ているからか、最前席の真ん中に席が用意されてありました。すぐ目の前でつとめが見られましたし、ご門主さまや前門さまの表情もはっきり見えて何とも特別なご縁をいただきました。

このたびの作法は「新制御本典作法」という音楽法要を交えたつとめでした。厳かな中にもどこかあたたかいお経さんに引き込まれてしまいました。

ご門主さまのお話で「念仏者の生き方とは、私たちひとりひとりが阿弥陀如来の知恵と慈悲を正しく聞いて行動する事によって、自他ともに心豊かに生きていくことが出来る社会の実現に努めること。」と言われました。私達も手を合わせて「おかげさま」の日々を過ごさせていただきます！



本命のお参りの他にも盛りだくさんで、京都の観光スポットを楽々バスで巡りました。中でも二条城の夜の特別拝観は昼間の桜の美しさとはまた異なり、ライトアップされた景色はあまりに幻想的で心を奪われてしまいました。もちろん様々な京料理にも舌鼓。心もお腹も満たされた時間でした。

三泊四日は、あつという間でしたが、ご門徒の皆さんと一緒にご本山へお参りが出来、そろって元気に釧路へ戻って来られたことは、とても尊いご縁でした。今回参加された方もそうでない方も次回の旅行や遠足がありました際にはぜひ一緒にしましょう！

仏教婦人会 川田 昭子

四月一日、本行寺坊守さま始め門信徒の皆様と、京都西本願寺にて慶讃法要を参拝いたしました。当日はお天気にも恵まれ、全国から大勢の参拝者がいる中、私達は御影堂の最前列に座ることが出来ました。

記念の法話で印象に残ったのは、「嘘にまみれ、嘘をつかなければ生きていけない私達。そんな私達を阿弥陀様がお救いください。」という言葉です。女性の布教使さまのとても優しい語り口が私達の心に染み入りました。

また、記念法要はとても厳粛なもので、雅楽が始まると真紅の衣をまとった導師様が入場。さらびやかな本尊と共に荘厳で美しい法要が進むにつれて目をうばわれてしまいました。

午後に訪れた大谷本廟では階段の先にある明著堂は、青空の下、木々の緑と色鮮やかな多くの供花に囲まれて、それはとても美しい光景でした。

知恩院、平等院、伏見稲荷など歴史のある建造物と、丁度見頃で満開の桜を満喫した四日間でした。



本行寺歴史探訪

—その23—

「遍照十方」編集委員

福田 昭南

一枚の写真から

本行寺には貴重な写真が多く残されています。
今回はその中から一枚の写真をご紹介します。



招魂碑に参拝されるご門主

昭和十三年（一九八三）七月二十八日、西本願寺の第二十三世、大谷光照門主が、北海道巡教により本行寺にご来寺になりました。釧路駅には門信徒を問わず大勢の出迎えの人々で埋まり、菅原覺月住職を先頭に大行列の中、徒歩で北大通りから南大通り、さらには鶴ヶ岱の「招魂碑」（忠魂碑と同じ）に参詣し、本行寺に到着しています。本堂にはご門主のご法話に触れようとする門信徒で廊下まで人であふれかえっている状況がうかがえます。

これらのようすは、当時の釧路新聞で詳しく報道されています。本行寺にも数枚の写真が残されており、その盛況ぶりをうかがい知る事が出来ます。特に注目したい一枚は、ご門主が「招魂碑」に手を合わせているお姿です。招魂碑はいうまでもなく



門信徒で埋め尽くされた本堂

国のために亡くなられた英霊を祀るもので、靖国神社や護国神社と同類であります。そこに仏教の最大宗派の門主が手を合わせるといいうのは、今の常識から考えると極めてめずらしい事だと思えます。

しかし時は戦時下。明治二年の「神仏分離令」により神道が国教となり、廃仏毀釈や寺領没収など仏教教団には大変苦しい歴史がありました。

また、昭和二年の「治安維持法」は、天皇崇拝を中心とした国民の思想統制と宗教の弾圧（真宗教団も例外ではなかった。）に猛威をふるっていました。「信教の自由」とは名ばかりで、国家神道の名の下に天皇を神格化し、宗教団体には戦争協力の思想が求

められ、これらに反すると弾圧を受けるという時代でした。こうした時代の背景から仏教界の国家権力への迎合はやむを得ない選択だったのかも知れません。当時、本行寺においても徴兵検査の会場になったり、戦没者の合同葬儀場に使われた記録が残されています。ご門主が招魂碑の前で手を合わせる一枚の写真から、その心中を想像するとともに、こうした苦渋に満ちた歴史が現在の真宗教団の礎となり、その後の本行寺の繁栄に大きく影響していることが思い知られます。

二度と繰り返してはならない、暗い歴史のひとこまです。



覺月住職に随行され本行寺へ

特別講演会

「人は死ねばゴミになるのか」

角道宏師の法話を聞いて

広報部 山 本 悦 也

とです。お墓では「○○家之墓」「南無阿弥陀仏」と刻んだのをよく見かけますが、気づきませんでした。浄土真宗・門信徒にとつてはとても大切な言葉であると聞きます。

それは、『仏説阿弥陀経』の中にもあるからです。引用すると、

…舍利弗。衆生聞者。应当發願。願生彼國。所以者何。得与如是。諸上善人。俱会一处。…

（訳）舍利弗よ、これらのことを聞いた人びとは、ぜひこの国に生まれようと発願してほしいものです。なぜなら、

そこでは、仏道を歩むさまざまな聖者方と一堂に会する喜びを得ることができからです。

俱会一处とは、「俱（とも）に一つの処（ところ）で会（あ）う」ことです。

死んで阿弥陀仏の極楽浄土で共に会うということですが、「人は死ねばゴミになる」という人がいますが、死んで終わりというのではない。死んで再び、先立たれた子供・両親・祖父母、先祖に会えるということです。

角師のご法話を聴いて、妙好人のようになり強い信仰心を持ちたいと思います。

啄木資料館通信

「啄木資料館は大切な宝物」

本行寺啄木資料館 館長

北 畠 立 朴

近年釧路では啄木に関する悪口を全く聞かなくなりました。私が啄木に関する調査を始めた頃は、会う人誰もが「あいつは悪いやつだ」と言われました。しかし、釧路時代の啄木研究が進むにつれて悪口が自然と消えてゆきました。一体なぜ消えたのだろうか。それ

には幾つもの原因があると思いますが、その一つに本行寺啄木資料館の開設があります。第五世菅原式也住職は啄木が大好きで、釧路市内で行われます啄木関連行事には必ず関わっておりまして。

そんな日々が続くなか、資料館の開設を決意されました。寺院の中に啄木資料館を開設することに反対される方も多かったと聞いております。もしもあの時、式也住職が啄木資料館を開設していなければ、釧路市内での啄木に対する評価は低いままだったろうと思います。

多くの来館者が啄木資料館を見て啄

木の素晴らしさを実感したことと思います。良いところも悪いところも公表する事でその人間が評価されます。私が体調不良のため企画が進んでおりませんが、戻り次第再開の予定です。運営にあたりまして今後も皆様のご協力をお願いします。



元町おてら食堂の取り組みについて

光寿会 板 宗 利

元町おてら食堂は、元町地区と呼ばれる区域のお寺を中心に平成二十九年から始まり、今年で六年目を迎えました。

お寺の大広間を開放して地域の交流の場となるよう実行委員会が運営しています。

（大成寺、本行寺、くしろ元町青年団、東部北地域包括支援センター、釧路市社会福祉協議会、生活相談支援センターくらしごと）
美味しい食事が食べられて、多くの世代で交流が出来ます。

また、気軽にお寺に来るきっかけになるようにとの思いもあります。七月二十三日には本行寺が当番で行われました。

是非皆様も参加してください。

※要事前予約

申込先・釧路フェス

九月は大成寺さんの予定です。





恋活パーティ in 本行寺



法味一言

「次第相承の善知識のあさからざる御勸化の御恩と
ありがたく存じ候」

訳 教えを伝えて勧めてこられた親鸞聖人や善知識の
方々の恩徳に謝すべきである

〔領解文(二部抜粋)御作 蓮如上人〕



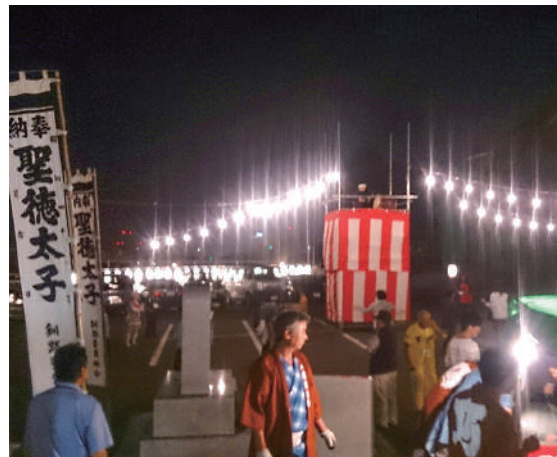
令和五年四月二十二日 本行寺に於いて「第四回恋活in本行寺」が開催されました。男性七名、女性七名の方のご参加をいただきました。

第一部では本堂で自己紹介タイムやフリータイムを行い、動行の体験してもらいました。一般的な婚活パーティとは違い、会場をお寺の本堂として行う事で、参加者の方々には新鮮な気持ちで楽しんでいただけたのではないかと思います。

夕方からは懇親会を行い、緊張もほぐれていくうちに、さらに交流の輪が広がり、最終結果では見事三組のカップルが成立しました。参加者の方々には、恋活自体の要望や感想はもちろん、青年会で行ってほしいイベントなど、様々なご意見をいただきました。こうしてほとけさまの教えを通して出遇える貴重なご縁を、より深めていけるように、今後の青年会の活動に取り組んで行きたいと思えます。

ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。

聖徳太子講例大祭



門信徒の皆さん!!

毎年、本行寺境内で盆踊りをしていくことをご存じですか??

仏教を日本にお伝え下さった聖徳太子のご命日に併せて、鉦路聖徳太子講(鉦路建築協会をはじめ各職能組合で構成される団体)の皆様がお祭りを開いて下さっております。

鉦路で行われる夏の盆踊りとしては最終となります!! 夏の終わりを太子講の盆踊りで締めくくりませんか? 是非、お越し下さい!!

8月21日

11時半から 大法要(太子堂)
19時 から 盆踊り(境内)

お知らせ

責任役員総代に天方智順さん、総代に水口吉朗さんがそれぞれご就任されました。
よろしくお願いいたします。

◎ 報恩講について

10月16日 11時より

◎ 遠足について

9月3日(日曜日)赤いベレー
詳細は未定です。

◎ 元旦礼拝について

1月1日 朝7時より

編集後記

前回で八〇号を迎えた門信徒会会報ですが、次は百号を目指してゆきたいと思っています。門信徒の皆様にお伝えが必要な情報の提供。お寺において頂く事ができるように法要や企画のお知らせ。門信徒会活動の歴史を資料として後世に残すため。など、発行にはいくつかの大切な目的があります。

新型コロナウイルスも5類の扱いとなり、まだまだ油断は出来ませんが通常の生活にもどつつあります。

この会報をきっかけにお寺の行事にも参加頂き、交流を通して心のよりどころになれば幸いです。

会報部一同